

アフガニスタン支援についての現状と課題

2013年6月
ワシントンD. C.

JICA南アジア部
嶋田晴行



過去10年間の改善例

- ◆ 一人当たりGDP \$123 $\Rightarrow$ \$591
- ◆ 初期医療へのアクセス: 9% $\Rightarrow$ 57%
- ◆ カブール-カンダハール間移動時間: 19hrs $\Rightarrow$ 5hrs
- ◆ 発電能力: 243MW $\Rightarrow$ 948MW

Source: The Government of Afghanistan (2012) & World Bank (2012)

アフガニスタン 2014年

- ◆ 3度目の大統領選挙 (4月5日?)
- ◆ ISAF (国際治安支援部隊) の撤退と「治安権限移譲」(Transition) 完了

→ 支援国そしてアフガニスタンの人々の間に「不安感」(治安・経済面)が広がりつつあることは確か。

外部依存の財政

- 国内歳入はGDP比8-10%
- 歳入-歳出ギャップを埋めるため外部支援は不可欠

FY1392 (2013) 予算

	Million US \$	Share
經常予算	3,775	
国内歳入	1,677	44%
外部支援	2,098	56%
開発予算	3,033	
国内歳入	244	8%
外部支援等	2,788	92%

Source: Government of Afghanistan (2013)

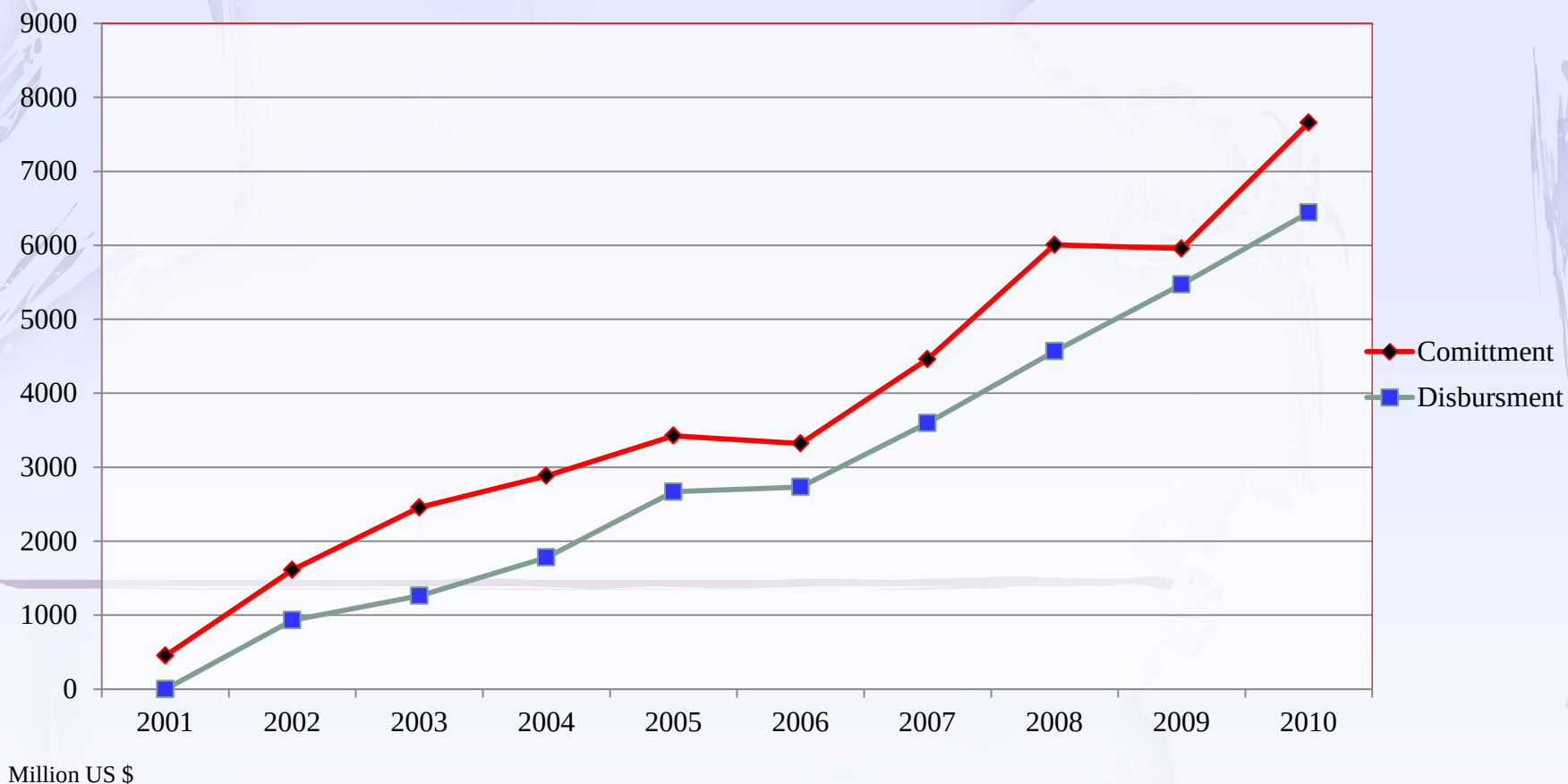
支援国会合

・プレッジ(意図表明)額

場所	東京	ベルリン	ロンドン	パリ
開催年月	2002年 1 月	2004年 4 月	2006年 1 月	2008年 6 月
プレッジ額 (Billion US \$)	4.5	8.2	10.5	20

- ・ 2012年7月の「東京会合」では、2015年まで計160億ドル程度の支援とその後同程度の支援を行うことを表明

コミットメントと供与（ディスバースメント）の差



Year	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
コミットメント	451.7	1611.55	2456.14	2883.13	3426.77	3320.97	4461.47	6006.19	5957.01	7660.3
ディスバースメント	0	932.29	1260.74	1781.09	2668.62	2733.41	3598.91	4568	5471.34	6443.56

Source: OECD DAC Database

アフガニスタン政府側の責任

ガバナンス(汚職対策、選挙実施等)強化



“Tokyo Mutual Accountability Framework”

- ・2013年7月3日 高級実務者会合 於カブール
- ・2014年発頃 大臣級会合 於ロンドン

治安関連支出

- 治安部門(国軍と警察)維持のための経費圧力

Million US \$

	2005	2006	2007	2008	2009	2010
民生支援	2,416	1,350	2,188	2,675	3,942	5,262
治安関連支援	988	1,905	7,028	2,750	5,470	8,594
財政支援	720	717	1,069	1,024	1,257	1,886
合計	4,124	3,972	10,285	6,449	10,669	15,742
治安関連支援割合(%)	24%	48%	68%	43%	51%	55%

Source: World Bank (2012)

- 権限移譲後の治安部隊維持経費は年間410億ドルと試算されるが、誰が負担？

日本のアフガニスタン支援

- ◆ 外交関係・支援は1930年代から始まり、9.11以降は最大ドナーの一つ
- ◆ 民生支援に特化
- ◆ 2009年に向こう5年間で50億ドルの支援を表明(その後、期間を延長)

日本の対アフガニスタン支援実績

年度	無償資金協力		技術協力		合計(億円)
	全体	国際機関等を通じた贈与	全体	JICA	
2001	25.06	-	0.41	0.40	25.47
2002	317.73	-	20.29	20.17	338.02
2003	236.69	-	27.08	26.45	263.77
2004	85.76	-	21.82	20.66	107.58
2005	112.22	-	32.52	31.50	144.74
2006	122.65	-	29.17	27.20	151.82
2007	171.66	103.01	24.55	24.30	196.21
2008	358.30	286.00	26.89	26.89	385.19
2009	523.07	437.62	27.54	27.32	550.61
2010	756.96	493.41	48.65	48.16	805.61
2011	723.54	506.31	-	58.98	-
累 計	3,405.54	1,723.34	-	334.98	-

出典: ODA国別データブック

JICAのアフガニスタン支援

- ◆ 1960年代から支援（稲作支援、職業訓練、結核対策など）
- ◆ 技術協力による能力開発＝人造り（例：年間50名程度の修士課程学生受け入れ）
- ◆ 厳しい行動制限下での協力

JICA協力の実績

年度	技術協力経費(億円)	研修員受入(人)	専門家派遣(人)	調査団派遣(人)	技プロ・開発調査件数
2000迄累積	22.96	437	121	93	—
2001	0.40	0	3	12	3
2002	20.17	83	38	278	5
2003	26.45	130	60	264	3
2004	20.66	165	64	177	4
2005	31.50	179	110	85	7
2006	27.20	172	127	112	2
2007	24.30	177	129	108	5
2008	26.89	215	97	137	2
2009	27.32	282	98	50	-
2010	48.16	363	269	149	-
2011	58.98	378	221	206	-
合計	334.99	2,581	1,337	1,671	31

JICAによる協力の変遷

緊急支援期

復興・開発期

‘02 ‘03 ‘04 ‘05 ‘06 ‘07 ‘08 ‘09 ‘10 ‘11

ポンププロセス アフガニスタンコンパクト・ANDS・NPP

緊急復興支援

平和の定着支援

（憲法制定支援、選挙支援、DDR除隊兵士の社会復帰支援等）

農業・農村開発

農業・農村開発

教育及び保健・医療等の基礎生活分野

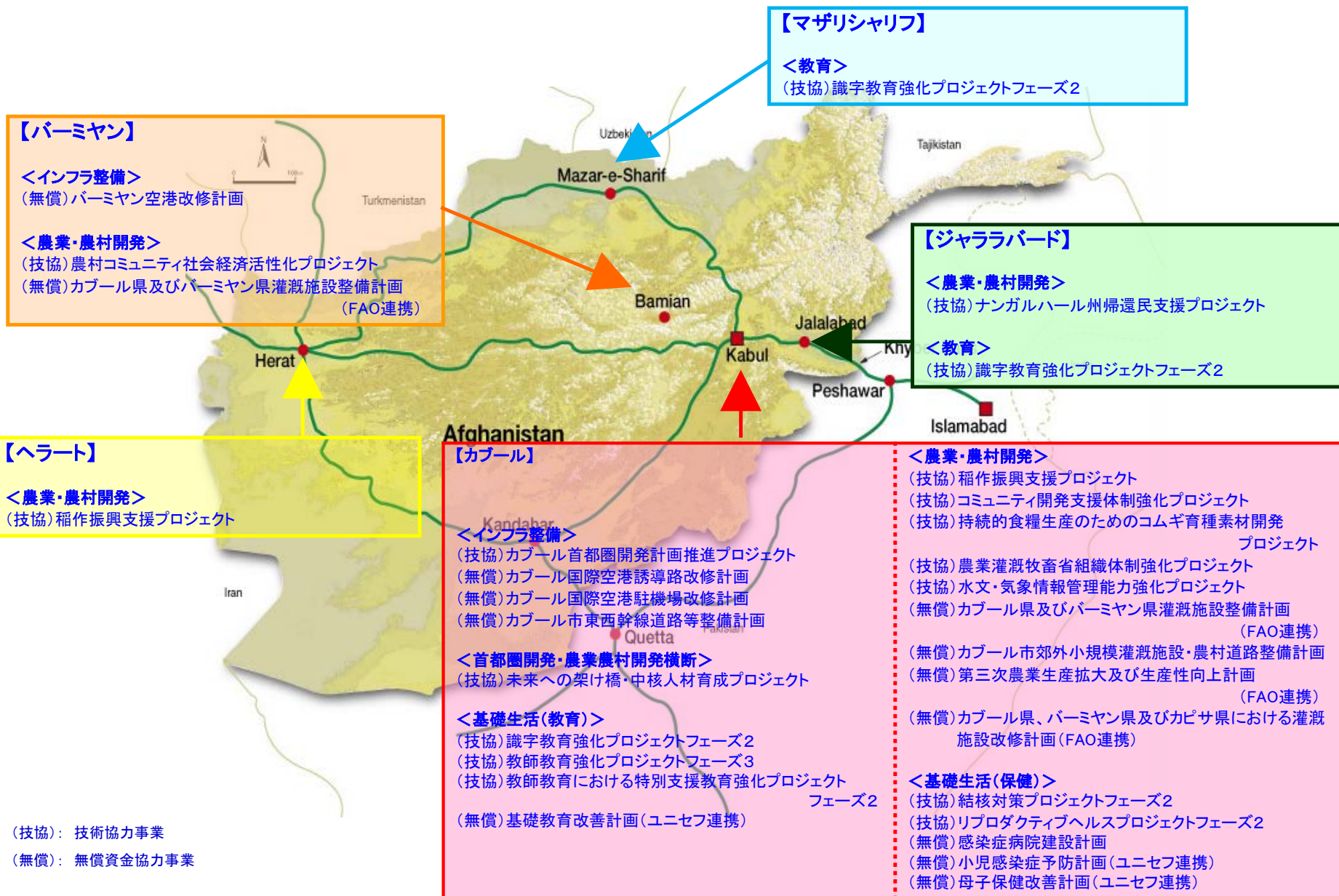
保健システム強化

基礎教育セクター支援

職業訓練・技術教育支援

インフラ整備支援

カブール首都圏開発等



カブール 国際空港

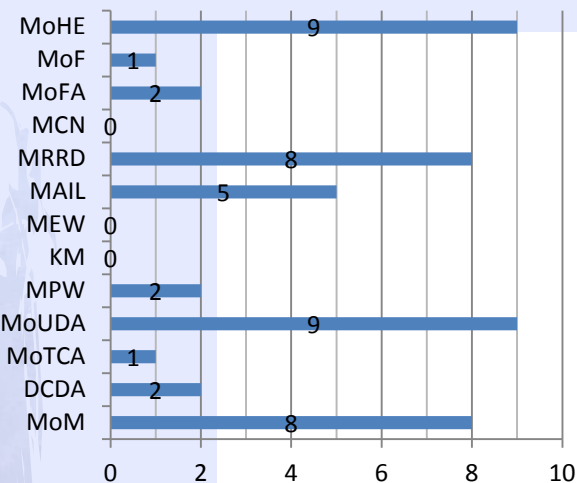


未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト(PEACE)

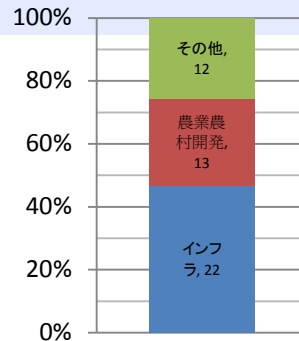
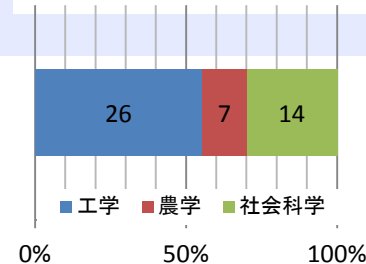
目的:アフガニスタン省庁と大学関係者の人材育成 (年間100名の研修生を5年間、計500名受け入れ予定)

2011年度実績: (47名 下記参照)、2012年度は28大学に53名が来日。

<アフガニスタン政府クラスター別、出身省別割合>



<研究分野別割合>



国際大学国際関係学研究科 正:5名
新潟大学大学院自然科学研究科 研:1名

秋田大学工学資源研究科 研:3名

九州大学大学院工学府 研:4名
九州工業大学大学院生命体工学研究所 研:3名

山口大学経済学研究科 研:1名

政策研究大学院大学政策研究科 正:2名
早稲田大学大学院国際情報通信研究科 正:4名
東京農業大学農学研究科 研:3名
東海大学工学研究科 研:1名

豊橋科学技術大学工学研究科 研:2名
名古屋大学国際開発研究科 研:1名
名古屋大学生命農学研究科 研:1名
名古屋工業大学大学院工学研究科 研:4名

京都大学農学研究科 研:1名
同志社大学グローバル・スタディーズ研究科 研:4名
立命館大学理工学研究所 正:1名

立命館アジア太平洋大学アジア太平洋研究科 正:1名

宮崎大学大学院農学研究科 研:1名

熊本大学自然科学研究科 正:1名

琉球大学理工学研究科 研:3名

References

- ◆ Government of Afghanistan (2012) *Towards Self-Reliance: Strategic Vision for the Transformation Decade*, 8 July 2012, Tokyo Conference on Afghanistan
- ◆ _____(2013) *National Budget 1392*, Ministry of Finance.
- ◆ World Bank (2012) *Afghanistan in Transition : Looking Beyond 2014*, (<http://siteresources.worldbank.org/AFGHANISTANEXTN/Images/305983-1334954629964/AFTransition2014Vol2.pdf>).